

かながわ露頭まっぷ ～真鶴半島番場浦の 採石場跡～

小田原 啓
(神奈川県温泉地学研究所)

■はじめに

海岸を歩いていると、さまざまな露頭に出会います。その中には自然が造ったものではなく、人工的に削られて出来た露頭もあります。今回は、神奈川県西部に位置する真鶴半島(図1)の番場浦海岸にある、採石場跡の露頭(写真1)を紹介したいと思います。

■番場浦の採石場跡

場所:

神奈川県足柄上郡真鶴町真鶴

緯度経度:

北緯 35 度 8 分 29 秒、

東経 139 度 9 分 19 秒



アクセス:

JR 東海道線真鶴駅より、箱根登山バス「ケーブル真鶴行き」で終点のケーブル真鶴まで乗車約 20 分。そこから番場浦の採石場まで徒歩 15 分程度(図 2)。

この採石場跡に露出する安山岩をよく観察すると、いろいろな事が見えてきます。まず、岩石表面に縞模様が見られます(写真 2)。この縞模様は、溶岩が冷え固まる際に流動して出来た流理構造と呼ばれるものです。次に、岩石に穴が空いていま

す（写真2の矢印）。これは矢穴と呼ばれ、石を切り出す際に開けられた穴で、これにくさびを打ち込み、岩石を割っていたものと考えられています。

■真鶴半島の形成

真鶴半島は、その形から羽を広げた鶴に例えられており、それが真鶴の地名の由来となっています。真鶴半島は一見、箱根の外輪山頂部から相模湾に向かって溶岩が流れて出来たように見えますが、実際はそうではありません。真鶴岬溶岩は、約23万～13万年前の厚い1枚の安山岩質溶岩からなり、北西-南東方向に配列した火口から同時に流出した溶岩ドーム群の形態をしていることが知られています（箱根団体研究グループ、1992；長井・高橋、2008）。すなわち岬そのものが火口の跡と言えるでしょう。

■本小松石と新小松石

石材業においては、真鶴半島より内陸の山側で産出する安山岩は本小松石、番場浦をはじめ真鶴半島部で

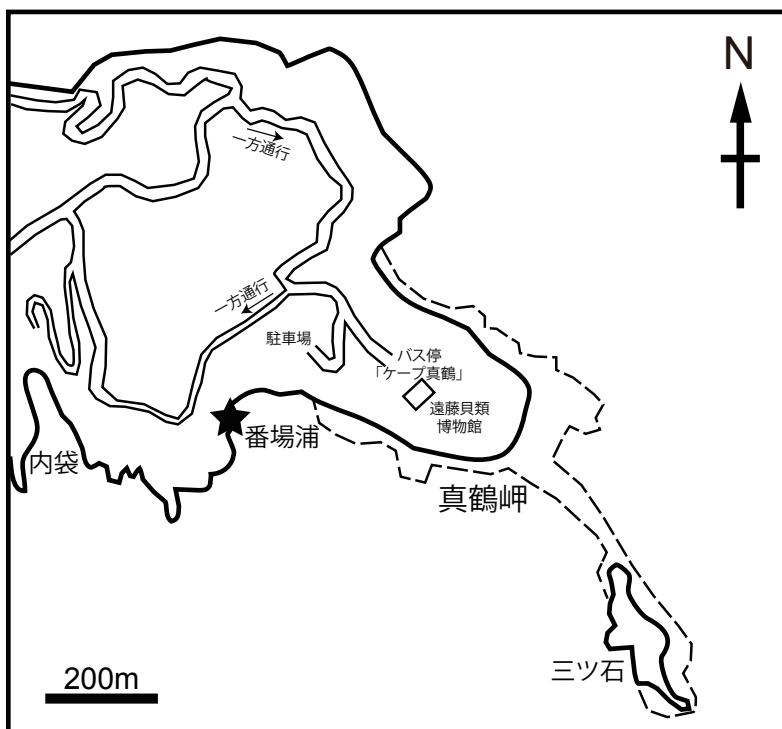


図2 番場浦海岸の地図（太線は海岸線、破線は岩礁を示す）。

産出する安山岩は新小松石と呼ばれています。本小松石の採石場は現在でも稼働しているところがありますが、新小松石は現在採掘されていません。本小松石は江戸に運ばれ、墓石や石垣として利用されたのは有名な話です。新小松石に比べ、本小松石はきめが細かく緑灰色を呈することから、石材としての価値は高いようです。地質学的には、本小松石は

本小松溶岩グループ、新小松石は真鶴溶岩グループと、別の岩体として区分されています（長井・高橋、2008）。

■おわりに

今回は、真鶴半島番場浦海岸の採石場跡を紹介しました。この場所は、箱根ジオパークのジオサイトにもなっています。真鶴半島には三ツ石、しとどの窟、岩海岸などのジオサイトがありますので、合わせて見学してみたいはいかがでしょうか。

■参考文献

- 箱根団体研究グループ（1992）箱根火山南東麓の地質（その1）—真鶴半島周辺のテフラと溶岩—、関東の四紀，no. 17，35-43.
- 長井雅史・高橋正樹（2008）箱根火山の地質と形成史，神奈川県立博物館調査研究報告（自然科学），no. 13，25-42.

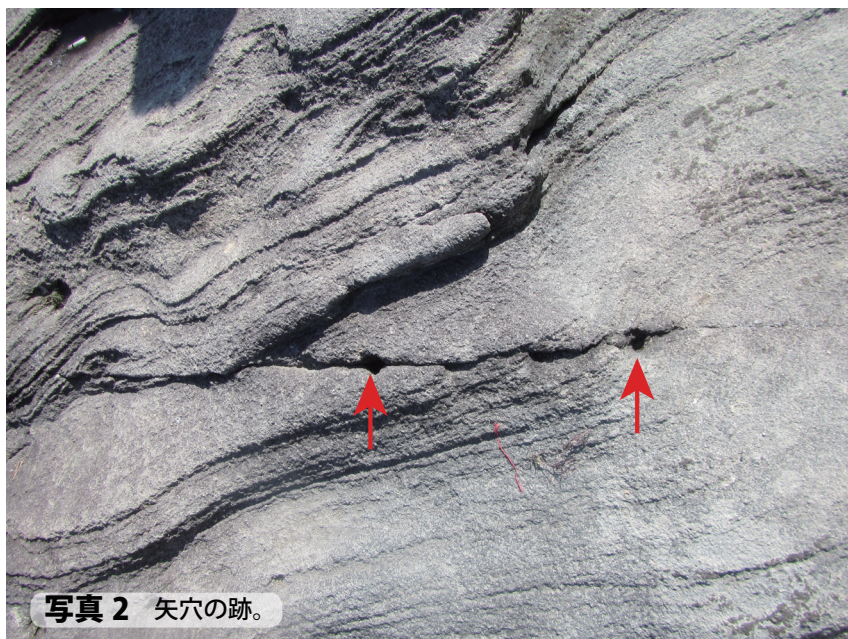


写真2 矢穴の跡。